

シナリオ開始 / 描写・判定

【臨床実験室Ⅰ】

そこは、自分たちがはじめに目を覚ました病室「臨床実験室Ⅰ」である。
目の前には複数のベッドがあり、カーテンがかけられている。

◎＜聞き耳＞※嗅覚として使用、病室全体に対して

前日より、探索者の身体が寝かされていたカーテンがかけられているベッドから
鉄臭い血の匂いを感じる。

・カーテンがかけられている複数のベッド

白いカーテンがかけられている病室のベッド。中の様子は分からない。
近づくとかすかに鼻につく匂いに気がつく。

※探索者がカーテンを開けると宣言した時

そこには、両足が欠損しており、その痛みに表情をゆがめる自分の姿がそこにあった。
断面からは血が流れ白いベッドの上を赤く染上げている。
両足が欠損し、身体のあちこちに管を通され、初めて苦しむ自分の姿を見た探索者は絶句する。
SAN チェック 2/1d4+2

◎＜医学＞※自分の身体に対して

自分の身体の状態と、ベッドで横たわっている自分の身体の機能や損傷が
同程度であることが分かる。死んでいても不思議ではない損傷だが
医療機材によって無理矢理生かされている状態であることが分かる。

☆クリティカル

両足の断面を詳しく見てみると、医療的処置により切断されたと分かる。

◇電子カルテ「被験体情報」

次項へ

GM 情報 / 補足情報

ここまでの「臨床実験室Ⅰ」の間取りや描写は変化無し。(ベッドと扉、窓がないなど)
1日目のPDFに描写した【廊下へ出る扉】と【病院内の廊下】も同様変化はない。

探索者から「廊下に出る」と宣言があり次第、3日目の探索マップを表示・探索開始。

鼻をつく匂いはもちろん血の匂い。

＜聞き耳＞判定をしている場合には血の匂いだと分かる。

新薬効果測定術後の状態。前日の第2被験体と同じ状態である。

前日は他人の両足欠損状態を目撃したが自分自身の両足が欠損している状態を
生で見ることはあり得ない経験のため SAN チェックは大きめ。

前日と同じく自身の身体と意識がリンクしている状態であることを示唆している。

自身の身体の太ももには、外傷や手術の跡はない。

手術されたことが記憶にないのは新薬の副作用のため（記憶の忘却）

◇電子カルテ「被験体情報」

【新薬 γ (ガンマ) 臨床実験の被験体】

この被験体情報は秘匿されています。

秘匿解除には「CODE:RED」のID 認証が必要です。

※現状「臨床実験室I」から出る情報は以上。

※解除後の情報

前日の被験体を観察した上で、新薬の効果測定を開始する。

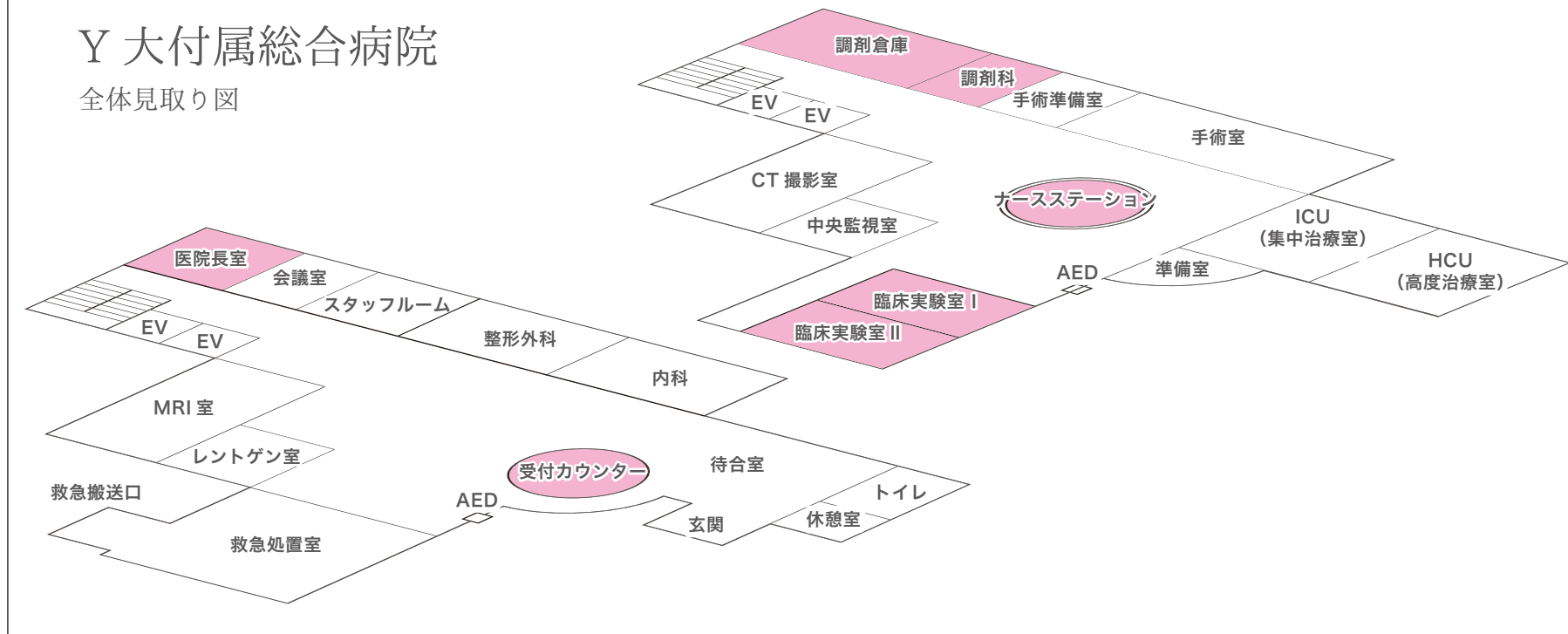
この被験体は内藤医院長が興味を持った被験体という報告を受けている。

注意深く経過観察を続けることにしよう。

このページは以下余白

Y 大付属総合病院

全体見取り図



【描写・探索可能一覧】

- ・ 臨床実験室II／被験体1号、2号の身体の状態と電子カルテ
- ・ 調剤科／モニターに内部メッセージ
- ・ 調剤倉庫／「記憶を曇らせる」呪文を習得。
- ・ 医院長室／探索者へ当てたメッセージ
- ・ ナースステーション & 受付カウンター／病院内スケジュール
- ・ AED／充電されていれば使用することが可能

【3日目の探索におけるポイントとテストプレイからの PL 行動の傾向】

取得する情報の優先順位が高い探索場所として「**医院長室**」

「最終日、この医院長室に来るように」とメタ的な意味を含めたメッセージを探索者に残している。

行動傾向として「ナースステーション」そして、新しく開放された「**医院長室**」と「**調剤倉庫**」

探索場所が4ヶ所に対して、探索者が技能を振って行える回数は4ターンに設定されているのでこの日は全探索可能。

探索者は大きく身体を損傷していくのに対して、NPC 被験体は探索者に反して回復している。

IDカードの情報が開示されているかで探索者に映る描写は違ってくる。

「**調剤科**」と「**調剤倉庫**」は、このシナリオ上重要個所ではなく、呪文が取得できるおまけのようなものである。「記憶を曇らせる」呪文は使いどころも難しく、おまけにもなっていないがSANチェック発生の役目を担っている。

【臨床実験室Ⅱ】

探索者が意識を取り戻した病室と同じ間取りの部屋である。
とてもきれいな印象を受け、カーテンがかけられているベッドが2つある。

◎＜聞き耳＞※宣言があった場合のみ

目の前にあるベッド（右のベッド / 第1被験体）から鉄臭い血の匂い。
もう一方のベッド（左のベッド / 第2被験体）からは何も感じない。

・カーテンがかけられている2つのベッド

白いカーテンがかけられている病室のベッド。中の様子は分からない。

※探索者がカーテンを開けると宣言した時

カーテンを開けて中の様子を確認すると、そこには先ほど見た自分と同じように
両足が欠損している男性がベッドの上で痛みにもがいている。
呼吸器をつけており、顔や腕の一部が腐敗していることに気がつく。
その男性も自分たち同様複数の管を通され、
両足はろくな処置もされずに放置されているような状態であった。

始めて光景を見た探索者：SAN チェック 0/1d4

既に両足を切断された身体を見ている探索者：SAN0/1

ベッドの脇には同じく「電子カルテ」が設置されてある。

◇電子カルテ「被験体情報：第1被験体」

この被験体情報は秘匿されています。

秘匿解除には「CODE:BLUE」のID認証が必要です。

◎＜医学＞※被験体第1号に対して

既に意識はなく、呼吸だけはかろうじてできている。

両足の切断面から見て人の手によって切り落とされたのだと分かる。

探索パート

第1被験体は腐乱死体から両足が切断された身体（新薬効果測定術後）の状態に戻っている。
第2被験体はICUから移動された直後に時間遡行している。

新薬効果測定術後の状態。

身体の一部が腐敗しているのは成れの果ての兆候。

それ以外はの状態としては、探索者と同じ状態。前日の第2被験体。

※解除後の情報

新薬の効果測定を実施する。経過を観察しているが皮膚の一部が黒く変色していきている。

健康体からの臨床データも採取する。引き続き経過観察を続けることにする。

・もう一方のカーテンのかかったベッド（2つ目）
カーテンを開けて中の様子を確認すると、そこにはひとりの女性がベッドで横たわっている姿があった。呼吸器をつけており、比較的落ち着いている状態である。前日見た光景とは違いその女性の両足はきれいに残っており、五体満足の状態である。ベッドの脇には「電子カルテ」が設置されている。

◇電子カルテ「被験体情報：第2被験体」

この被験体情報は秘匿されています。
秘匿解除には「CODE:BLUE」のID認証が必要です。

◎＜医学＞※被験体第2号に対して

両足に切断された形跡はなく、女性の身体は五体満足であることがわかる。
また、女性の身体の状態や特徴から見て「筋萎縮性側索硬化症（きんいしゆくせいそくさくこうかしょう）」通称 ALS という難病指定されている特定疾患だと分かる。しかし、現状の状態から、命に別状がないことが分かる。

もとよりこの病院のICUに入院していた女性の患者。
難病指定されている疾患を煩っていることから新薬の被験体として選ばれている。

※解除後の情報

新薬の被験体として新薬の投与する。
病状を観察し、状態に変化が見受けられた場合効果測定手術を施す。
新薬の効果により、病状の回復に期待したい。

ALSは実際にある難病指定されており、一般的にICUに入院させられる疾患である。
現代の医療技術では原因や治療が不可能とされている疾患である。

このページは以下余白

【ナースステーション】及び【受付カウンター】

前日と様子は変わらず、「タッチパネル式のモニター」が2台設置してある。

・タッチパネル式のモニター（2台とも同じ情報）

患者情報やこの病院のスケジュールのデータが管理されている。

気になる項目として「病院内スケジュール」の項目を見つける。

◇モニター「病院内スケジュール」

・本日の予定

内藤医院長出勤日 / 調剤倉庫から薬の補充

※この時点で【ナースコールセンター】から得られる情報は以上。

※技能による判定は存在しないので投薬機の様子に変化はない。

【調剤科】

前日見た光景とさほど変わらず、カウンターをはさみ、多くの薬品が棚に陳列されている。

処方箋管理もデータ上で保守・管理されている。奥の方には「調剤倉庫」へと続く扉がある。

モニターには内藤医院長から内部メッセージがあることに気がつく。

◇内部メッセージ「新薬の構成物質」

新薬の成分である例の試薬を倉庫から補充しておいてください。

以下の情報はセキュリティ設定しておくように。

ー添付データ

この情報は簡易セキュリティがかけられています。

◎<コンピュータ>or<電子工学>※モニターのセキュリティに対して

簡易セキュリティを寛恕することができる。

※解除後の文章

「記憶を曇らせる」呪文を施し、定着させた試薬 ε （イプシロン）の補充。

※この時点で【調剤科】から得られる情報は以上。

※技能による判定を行った場合投薬機の針を進める。

出勤日となっているが、内藤医院長はこの病院にいない。

痛み止めと精神安定剤を既に取得している場合は、探索者に有益な情報は出ない。

新薬 γ （ガンマ）の構成物質として試薬 ε （イプシロン）がある。

左記の情報にもある通り「記憶の忘却」は ε （イプシロン）の効果である。

情報の価値として、重要度は高くない。おまけ要素。

<コンピュータ>or<電子工学>があればラッキー程度。

【調剤倉庫】

壁に寄せられた薬品棚に数多くの薬品が並べられている。

そのどれもがアルファベットのコード表記されており、一見して何の薬なのかは分からない。

◎＜目星＞or＜薬学＞※薬品棚に対して

多くの薬品がアルファベットのコード表記されている中、１つだけ鍵のかかった箱を見つける。

その箱にはアルファベットではなく、ギリシャ文字ε（イブシロン）が使われている。

◎＜鍵開け＞※鍵のかけられた箱に対して

中から１枚の紙切れが出てくる。それはこの世の者とは思えない禍々しい方法で

生成される薬の調合法と一緒に呪文が書かれている。

◎＜INT*3＞※鍵開けをした探索者限定強制ルール / 上記の文章読んだ場合

成功した探索者は「記憶を曇らせる呪文」を取得する。

取得したと同時に SAN チェック 1/1d3+1

失敗した場合、呪文は取得できず SAN チェックも回避。

判定後、紙は煙のように消えてしまい、そこにははじめから何もなかったかのように

その紙と呪文を目にしたことが探索者の記憶から忘却されていく。

※この時点で【調剤科】から得られる情報は以上。

※技能による判定を行った場合投薬機の針を進める。

＜英語＞でも判定可能。ε（イブシロン）は次回作につながる伏線。

このシナリオ上あまり関係ない。

このシナリオ上関係のない要素。おまけ及び SAN チェック要素。

この呪文についての詳しい記載は基本ルルブ 255p に掲載されている。

探索者に強い恐怖的な経験やトラウマに対して使い手はその記憶を具体的に明言し

SAN と MP を消費することで忘れさせることができる。

読んだ探索者は、はじめから何もなかったようにロールプレイしてもらう必要がある。

描写だけでは不足な場合、KP 発言としてアナウンスする。

【医院長室】

とてもきれいに整理された部屋であり、部屋の中央にはソファと座卓が設置されている。
部屋の奥には引き出しのついたパソコンデスクと椅子。
書籍やファイル、紙などは一見して見当たらず、
デスクには複数のモニターが設置されており、すべて IT 管理されている。

・パソコンデスクの引き出し

引き出しを開けてみるとそこには、この病院では珍しく
複数の書籍が引き出しの中に並べられている。背表紙を見る限り、
医療書とは少し違い人間の身体の構造や細胞、遺伝子構造に関連した書籍である。

◎＜目星＞or＜図書館＞※引き出しの中にあった書籍に対して
並べられている書籍の中から、外装の質感が違う書籍を発見する。
背表紙には「γ(ガンマ) の見た夢」と記されており、
何者かが手書きで書いた「手記」であることが分かる。

◇手記「γ(ガンマ) の見た夢」

わたしは夢の中で、新薬を完成させた。
それを自身に投与し、夢から覚めたのだ。
過去は忘却され、決して書き換えられることはない。
今夢をみているものは未来にしか時間は残されていない。
彼らには残されていない。あなたたちはまだ生きているのだから。

ソファと座卓を調べても何も出てこない。

書籍をすべて引き出しから出して並べるなど、ロールプレイで自動成功。

探索者は赤い新薬を投与されている。

夢の中で探索者自身に赤い新薬を投与しなければ実際の時系列とパラドックスが起ってしまう。

あなたたちとは、探索者自身のこと。彼らとは、NPC 被験体のことである。
「CODE：RED」による電子カルテの情報が開示されていない状態であれば、
探索者自身に成功薬が投与されていることのヒントとなりうる。

・デスクに設置されているモニター

モニターに触れると、暗かった画面がパツと明るくなり元々表示されていた内容が映し出される。

普通のデスクトップにフォルダのアイコンが雑多に並べられている。

雑多に表示されてあるフォルダの中から、鍵のマークがついていないフォルダを見つける。

それは「夢を見ている君たちへ」という気になる名前がつけられたフォルダであった。

フォルダの中を開くとテキストファイルが立ち上がり文章が表示される。

◇フォルダ「夢を見ているもの達へ」

夢の世界へようこそ。

君たちはわたしの好奇心に従って選ばれた人間だ。

この病院へ向かう途中「たまたま」列車事故に遭って

不幸にも、心身ともに負傷してしまったみたいだね。

その新薬も明日には完成する。またこの部屋に取りにくるといいだろう。

それで君たちの身体も元通りだ。

良い未来で先に待っているよ。

※この時点で【医院長室】から得られる情報は以上。

※技能による判定を行った場合投薬機の針を進める。

鍵のマークがついているデータは開くことはできない。

技能を使っても自動失敗。

前作のシナリオ「μ(ミュー) ミ=ゴ」は「内藤医院長（ニャルラトホテブ）」を崇拝している。

地震の研究の手前、高い INT をもつ探索者を列車事故に巻き込ませて

生還した人間を新薬の実験として度お尿な行動をとるのかを観察している。

内藤医院長は KP と同じ視点である。

また、未来があることを示唆している。(続編シナリオへ)

※探索が終了し、投薬機の針が真上に戻った時に下記のイベントが発生。

ひと通り、探索を終えた探索者たちは前日と同じように腕から全身に何かが浸透するかのような感覚とそれと同時に非常に強い眠気に襲われる。その場で昏倒し意識は徐々に遠のいていく。気がつくと。前日と同じように「臨床実験室Ⅰ」に立っている状態で意識をが戻っている。同じように他の探索者の姿も見えるがその姿は疲弊し痛みで顔を歪めている。

◎＜幸運＞

成功：今までとは違い、全身に強い痛みを感じる。**ダメージ 1d2**

失敗：全身に走る痛みと、今まで起った非現実的体験からか、精神的なダメージと疲労感を感じる。**ダメージ 1d2+SAN チェック 1d4**

◎＜医学＞※目が覚めた自身の身体に対して両足からではなく、その痛みを全身に感じる。

※この次点から4日目の「臨床実験室Ⅰ」の描写に入る。

※次データへ移動

→ フォルダ『02_ シナリオ本編 / キャンペーン用』 → 『4 日目 / エンディング .pdf』へ

4日目に突入する。

つまり、実際の時系列でいう新薬臨床実験の初日の描写に戻る。

前作の列車事故から生還直後の状態。＜幸運＞失敗でMPを減らしたいところではあるが探索者に気がつかれてしまう可能性が高いと感じ、SAN チェックとしている。

※前作のエンディングでは、MPをほぼすべて消費した探索者は強い疲労感に襲われている。

上記＜幸運＞を行い、ショックロールに陥った探索者に対して

＜医学＞もしくは＜応急手当＞を試みた場合、意識を回復させることができる。

出血性ショック / 心停止の状態ではないため復帰することが可能。